

ギターアンプの特徴、 サウンドメイク

ギターアンプの基本

- **ギターアンプとは**

EGの音を出すための装置。

アンプを通さないEGの素の音はペラペラのショボい音。だが、こちらが本来のEGの音。

- **ギターアンプの構造**

プリアンプ(入力回路)+パワーアンプ(増幅回路)+キャビネット(スピーカー)

- **構造による違い**

スタックタイプ・・・ヘッドとキャビネットがセパレート

コンボタイプ・・・一体型

ギターアンプの構造

スタックタイプ



【主なモデル】

Marshall JCM800
Mesa/Boogie
Rectifire
Fender Bassman

など

- ヘッドとキャビネットが分かれている
- 大会場での演奏を想定
- 可搬性が低い
- 拡張性が高い(好きなヘッドとキャビを組み合わせる事が可能)

コンボタイプ



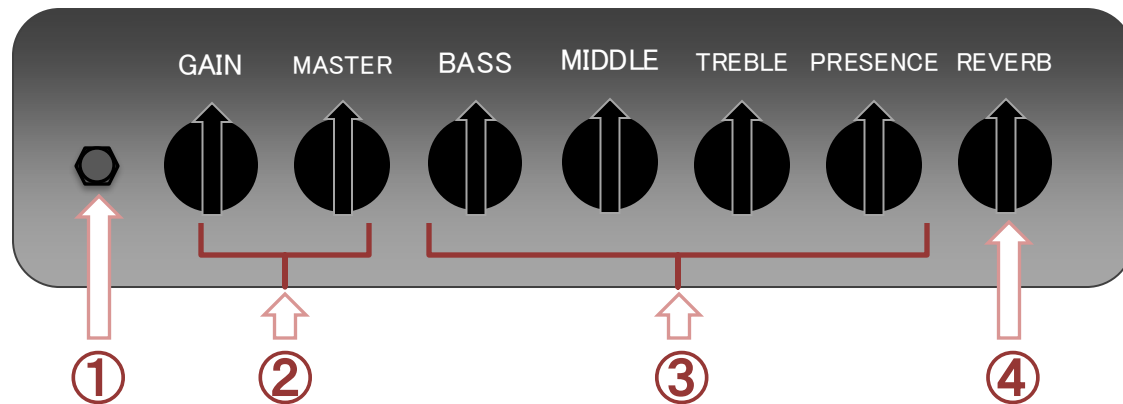
【主なモデル】

Fender Twin Reverb
Vox AC30
Marshall Blues Breaker

など

- ヘッドとキャビネットが一体型
- 自宅～小/中規模会場での演奏を想定
- コンパクトで運びやすい
- 拡張性が低い

ギターアンプの操作①

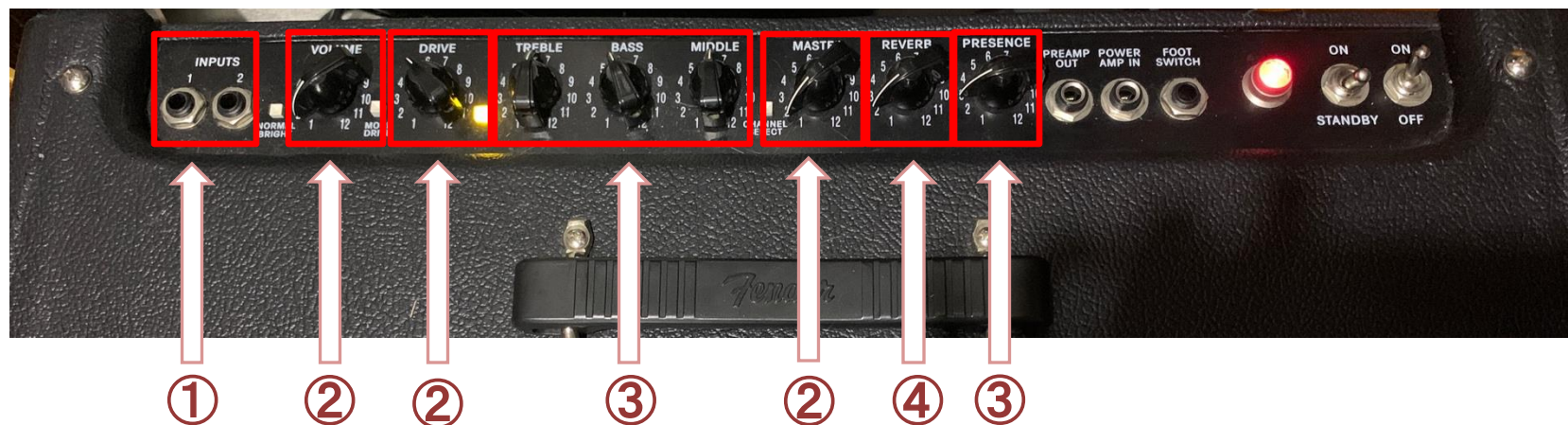


- ① インプット(モデルによっては複数チャンネルあり)
- ② プリアンプ/パワーアンプボリューム
(表記はまちまち・・・GAIN/Master、DRIVE/Volume、Vol1/Vol2、etc)
プリは音作り。ボリュームを上げると倍音が増え歪んでいく。パワーはプリで作った音をそのまま増幅。
- ③ EQセクション
- ④ エフェクト(リバーブ)

**アンプを操作するときは、どれがプリアンプボリュームで、
どれがパワーアンプボリュームか？見極めよう！！**

ギターアンプの操作②

Fender Hot Rod Deluxe の場合



- ① インプット (1はハイパワー、2がローパワー)
- ② プリアンプ/パワーアンプボリューム
(Volume=クリーンチャンネル、Drive/Master=ドライブチャンネル)
- ③ EQセクション
- ④ エフェクト(リバーブ)

ギターアンプの基本

プリアンプ/パワーアンプの設定による音の違い

- クリーン
プリのボリューム低い 歪みのないクリーンなサウンド
- クランチ
プリのボリュームちょい上げ 軽く歪みかけなサウンド
- ドライブ
プリのボリューム上げ目 しっかり歪んだサウンド
- ハイゲイン
プリのボリューム最大 極悪なサウンド

ギターアンプの主なモデル

ギターアンプの代表的モデルと特徴

- Fender Twin Reverb
クリーンが強いコンボアンプ。ブルース系やカッティングに良い。
1ボリュームだが、ボリュームを上げると強めのクランチ程度には歪む。ブルース向きの歪み。
- Marshall JCM800
ドライブが強いスタックアンプ。ロックの定番。
大会場での演奏のため開発され、プリアンプのボリュームを上げると程よく歪む。
ロックを代表するアンプとなった。
- Mesa Boogie Dual Rectifier
ハイゲインが強いスタックアンプ。2チャンネルあり
クリーンも出せる。ダウンチューニングでも輪郭がぼやけず、
メタラー御用達。



他にVoX AC30、Roland JC-120、Marshall Plexi、EVH 5150など

ピックアップポジション

レス・ポール(2ピックアップ)



フロント・ピックアップ
} ハーフ・トーン
リア・ピックアップ

ストラトキャスター(3ピックアップ)



フロント・ピックアップ
} ハーフ・トーン
センター・ピックアップ
} ハーフ・トーン
リア・ピックアップ

ピックアップポジションによる音の違い

フロント

甘くて太い、伸びやかな音

リア

明るくてタイト、歯切れの良い音

センター

その中間

ハーフトーン

独特のアタックが強調された音

ロック系ではリアを歪ませたサウンドが多用されたり、ジャズ～フュージョンではフロントのクリーントーンが多用されたりといった傾向はあるが、ピックアップポジションのチョイスは奏者の好みや個性の部分でもある。